

YMCA 大阪青年




信頼できる大人が育む 子どものレジリエンス

「子どもの成長を支える」というとき、私たちはつい家庭だけを思い浮かべます。しかし実際には、地域の中にあるもう一つの居場所——YMCAのような場所——が、子どものレジリエンスを育む上で、家庭と同じくらい大きな役割を担っています。

レジリエンスとは、辛いこと、逆境をひとりで我慢して耐え抜く力のことではありません。困難な状況に置かれたときに、周囲の支えや信頼できる関係性を通して、それに向き合い、適応し、そこから再び前に進んでいく力のことです。つまりレジリエンスは、一人ひとりが生まれつき持っている、あるいは持っていないといった固定的な性質ではなく、周囲の人や環境との関わりの中で、時間をかけて育てていくものなのです。

日本の子どもたちは、世界で最も身体的に健康です。ユニセフの調査(Innocenti

Report Card 19、2025年)でも、身体的ウェルビーイングはOECD・EU43か国中1位でした。しかし同じ調査で、心理的ウェルビーイングは32位。「孤独を感じる」と答えた若者はOECD平均の約3倍にのぼり、15歳で週に1~2回親と話す割合は38か国中最下位でした。身体は守られているのに、心はつながりを失っている——これが今の日本における思春期の子どもたちの実態です。

思春期は、大きな子どもでも、小さな大人でもない、独自の発達段階です。身体は急速に変化しますが、心理的・社会的な成長はゆっくりと追いついていきます。この時期の若者に本当に必要なのは、管理してくれる大人ではなく、安定して「そこにいてくれる」大人です。

近年の9か国・2万人以上を対象にした複数の研究から、「生きる目的意識」、「感情

の調整」、「対人関係」、そして「自然や場所とのつながり」という4つの領域の強みが、レジリエンス＝逆境を乗り越える力を高めると分かりました。中でも際立って重要だったのが「対人関係」、つまり信頼できる人とのつながりと、「生きる目的意識」でした。一つの強みが飛び抜けている必要はなく、複数の領域に少しずつ強みを持つことが、レジリエンスを高めるために大切です。

YMCAのような場所が担っているのは、まさにこの役割です。家庭の外にありながら、子どもが安心して「自分のままでいられる」場所。スポーツでも、キャンプでも、学びの場でも、能力を発揮し、仲間とつながり、地域に貢献する経験を積むことで、子どもは初めて安心して挑戦し、失敗し、また立ち上がることを学びます。これこそが、レジリエンスの本質です。

米国のGinsburg教授による「灯台」のたとえがあります。子どもは海を進む船、大人は岸に立つ灯台です。灯台は船を操縦しません。ただ、いつも同じ場所で光り続け、危険な岩を照らし、船が自分の力で進むのを見守ります。YMCAという場所自体が、地域の中の灯台であると言えます。

子どもを育むのは、親だけではありません。地域に信頼できる大人が増えれば増えるほど、子どものレジリエンスは育ちます。YMCAに関わるすべての方が、誰かにとっての「灯台」なのだということを、あらためて心に留めて、子どもと接していただければと思います。



Elizabeth Miller

MD, PhD, FSAHM

国立成育医療研究センター
女性の健康総合センター
副センター長(企画調整役)
ピッツバーグ大学医学部
小児科学 名誉教授

● 英文はこちらから
“English version”



■大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭・地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人のびとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み、平和で公正な世界をめざします。

表コミ 広島修学旅行 ～平和とは何か～

大阪YMCA国際専門学校

大阪YMCA国際専門学校 表現・コミュニケーション学科(表コミ)では、6月24日(水)から26日(金)の3日間、3年生の広島修学旅行を実施しました。

「できれば、せめてあなたがたは、
すべての人と平和に暮らなさい。」
(ローマの信徒への手紙 12章18節)

生徒たちとこの聖句を今回のテーマとして定め、「平和とは何か、自分たちにできることは何か」を考える行程となりました。

1日目は、平和記念資料館の見学等の平和学習を行いました。この日のハイライトは、広島女学院高校のボランティアの皆さんとの「碑めぐり」でした。同じキリスト教学校の同世代の生徒から語られる、碑に込められた思いや当時の被害についての説明に、生徒たちは真剣な表情でメモを取り、積極的に質問をする様子も見られました。過去から学び、自ら知ろうとする生徒たちの姿勢の中に、これからの平和を創り出す希望を感じました。



2日目は、被爆伝承者による講話を聴講しました。現地で惨劇を語り継ぐ方の言葉や、平和を願う心に触れた生徒たちは、平和学習が単なる歴史学習ではなく、未来を考えるものであると強く実感しました。この貴重な体験は、自分たちにできる身近な平和は

何かを「自分ごと」として考える契機となりました。

また、宮島や広島市内での班別自由行動では、クラスメイトと楽しい時間を共有しました。歴史の痛みに深く触れたからこそ、仲間と笑顔を交わす日常の尊さが身に染み、「今ここで自分たちが生かされている」という喜びを肌で感じる経験となりました。

この修学旅行で深く学んだ表コミ生が、今後、周囲と調和して平和を創り出す「ピースメーカー」として、卒業後も豊かに歩んでいくことを願っています。



◎生徒の振り返りより

- ・安心から広がるものが平和だと思った。自分の宝物を人に渡せる人がいたり、手を繋いで仲間を増やしたりすると、世界が平和へ少しずつ近づくと感じた。
- ・争いを避けることは難しい。でも無理に避ける必要はなく、争いが起こった際に自分の意見をしっかり伝え、相手の意見も軽く扱わないことが大切だと思います。
- ・平和とは、他の人たちのことを知っていくことだと思う。なぜなら、みんながみんなのことを知っていけば、いろいろな考えがあることを知ることができ、それが平和へと繋がっていくと思ったから。

大阪YMCA国際専門学校 表現・コミュニケーション学科
3年生担任 中岡 新菜

地域における水泳授業の委託

和泉市サン燦プール

近年、学校教育における水泳授業は、施設の老朽化や維持管理コスト、専門的な指導の確保、猛暑による熱中症対策などから、民間プールへの委託が全国的な広がりを見せています。こうした背景の中、大阪YMCAが運営するサン燦プール(大阪府和泉市)で、大阪YMCAでは初となる学校の水泳委託授業を実施しました。

対象となったのは和泉市内にある中学校の生徒たちで、1年生135名、2年生129名、3年生142名が参加しました。本年度は、5月から8月にかけて全9日間にわたる授業を行いました。指導においては、生徒一人ひとりの習熟度に合わせたグループ指導を展開し、水



が苦手な生徒から泳力のある生徒まで、それぞれのレベルに応じて無理なく安全にスキルアップできる環境を整えました。参加した生徒からは、「厳しく指導されるのかなと思ったけど、すごく優しく丁寧に教えてくれた」「平泳ぎの足の運び方がよくわかって、泳ぎの改善がしやすかった」など、実施の成果を感じられる嬉しい声が寄せられました。

また、本事業は学校現場との連携のもとで行われました。学習指導要領に基づく学びのうち、実技となる「技能」の指導を大阪YMCAの指導者が担当し、その他の領域(知識・思考・態度など)については学校の体育教員と協力して進めることで、体育という教科本来の目的もふまえながら実施することができました。

今回の取り組みは、単なるプールの貸し出しや授業の代行にとどまりません。大阪YMCAが長年培ってきた水泳指導のノウハウを地域社会へ還元し、子どもたちの健全な育成に寄与する重要な「地域貢献」の一環であったと捉えています。初の試みとして確かな手応えを得た今回の経験を活かし、今後も学校や自治体との連携をさらに深め、地域に根ざしたYMCAならではの強みを発揮して、次世代を担う子どもたちの健やかな成長を支えていきたいと思ひます。

和泉市サン燦プール 副所長
小島 宏樹

地域と親子をつなぐ温かい居場所 ～このゆびとまれでつながる、支えあいの輪～

YMCAたかつきあま保育園

最近では核家族化が進み、日々の暮らしの中で「周りに子育ての悩みを相談できる人がいない」「ひとりで不安を抱え込んでしまう」という保護者の声が届いています。また、子どもたちが、泥んこ遊びや水遊びに夢中になれる安全な場所も少なくなりました。そこで、YMCAたかつきあま保育園では、地域の親子が気軽に遊びに来られる場所として、子育て支援プログラム「このゆびとまれ」を実施しています。

「このゆびとまれ」は、「地域に開かれた保育園への最初の一步」をテーマに、YMCAが大切にしてきたキリスト教保育・YMCA保育＝主体性を大切に「待つ保育」の実践を通したプログラムです。



園庭での砂遊びや室内での体を動かす遊びは、子どもたちの豊かな感覚を刺激し、好奇心を引き出します。また、月齢に合わせて、子どもたちが過ごす環境やプログラムを整えています。さらに、保護者向けのワークショップや、専門スタッフとゆっくりお話しできる相談室を設けて、保護者もホッと一息できる時間があります。

こうした取り組みを続ける中で、地域の親子にとって、園が安心できる「居場所」へと変わって

きているのを感じます。参加者は年々増え続け、特に保護者の参加が伸びており、「ひとりじゃないと安心することができました」「子育てに自信が持てるようになりました」という嬉しい声も届いています。また、子どもたちが定期的に通うケースも増え、ご家庭と園が共に子どもたちの成長を見守る信頼関係を築くことができています。

YMCAは、一人ひとりの「いのち」が輝く平和な社会の実現をめざしています。私たちは、お子様をお預かりするだけの場所ではありません。地域で支え合い、共に関わり安心できるコミュニティ型保育の拠点になることを願い、これからも「このゆびとまれ」を通じて、親子の笑顔と地域との絆を広げてまいります。



YMCAたかつきあま保育園 園長
秋山 健二

自然の恵みを未来へつなぐ ― 森林保全の功績と呼子高原キャンプ場での取り組み ―

【滝口敏行さんの内閣総理大臣賞受賞をお祝いして】

4月24日(金)、元大阪YMCA職員で長年大阪YMCAを拠点に森林保全活動へ情熱を注いでこられた滝口敏行さんが、第20回みどりの式典において「緑化推進運動功労者」として内閣総理大臣賞を受賞されました。滝口さんは「大阪YMCA森林ボランティアの会」や「NPO法人日本森林ボランティア協会」の設立に尽力され、「森林大学」などを通じて知識と技能を備えた多くのリーダーを育成されてきました。今年卒寿(90歳)をお迎えになられた滝口さんは、今なおお元気に活動が続けておられます。「都市生活も水も森林に支えられている」と語り、地球環境の未来を見据えて市民参加の緑化活動を牽引してこられた姿勢は、私たちに大きな学びを与えてくれます。長年にわたる森林保全へのご尽力と今回の栄えある受賞に心より敬意を表するとともに、お祝い申し上げます。



7月4日(土)、大阪YMCA会館にて、この度のご受賞をお祝いする会が開催され、多くの人が集いました。また、お祝い会の実行委員会より青少年育成活動支援金としてご寄付をいただきました。ご支援に感謝申し上げます。

【今、大阪YMCAが取り組む呼子高原センターをフィールドとした取り組み】

鳥取県日南町にある呼子高原センターは、環境省の「重要里地里山」に選定された地域に位置する、約28ヘクタールの自然豊かなフィールドです。長年野外教育施設として親しまれる中、開発を最小限に留めてきた敷地内には、広葉樹林や針葉樹林、清らかな溪流や湿地が広がり、ブッポウソウやサンショウウオ類など多種多様な生きものが息づいています。現在、大阪YMCAではこの恵まれた生態系を守り育むため、環境省の「自然共生サイト」認定に向けた申請を進めています。この豊かな自然をありのまま活かした体験価値を創出し、次代を担う子どもたちが命のつながりや環境の尊さを深く学べる「青少年育成の場」として、時代に合わせた新たな教育プログラムや持続可能な森づくりへ、果敢にチャレンジしてまいります。

ユース事業部 法人事務局 事業長
樹井 智之





このコーナーは、Yボランティア(会員)・賛助会員のみなさまの思いを綴るコラムコーナーです。

人が人をつなぐ

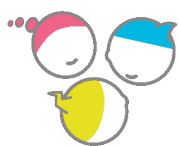
学生時代、私は堺YMCAでボランティアリーダーとして活動していました。キャンプや野外活動で子どもたちと過ごした日々、そして共に汗を流した仲間との出会いは、今も私の原点です。

あれから年月が過ぎ、現在は大阪YMCAの委員会活動に携わり、ワイズメンズクラブ*の一員としても活動を続けています。思えば、どれも自分から進んで始めたというより、誰かの紹介がきっかけでした。人が人をつなぎ、そのつながりがまた次のつながりを生んでいきます。

人と出会うことは、新しい世界の扉を開くことです。これまで知らなかった価値観に触れ、思いもよらない体験へと導かれます。そして気づけば、今度は自分が誰かと誰かをつなぐ側に立っています。

出会いに終わりはありません。これからも新たな出会いを求め、人と人との間に立ち続けたいと思います。そのささやかでワクワクする積み重ねが、地域を、社会を、少しずつ豊かにしていくと信じています。

*ワイズメンズクラブ…YMCAの活動を支援することを第一の目的として、地域・国際社会に奉仕する国際的なボランティア団体



VISION150委員会委員
大阪泉北ワイズメンズクラブ
なか い まさひろ
中井 正博

インフォメーション

早天祈禱会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時(毎月第3金曜日予定)が持たれています。YMCAのさまざまな場で活動されている方々にお話をいただき、人生の歩みを分かち合う恵みの時としています。

第389回

日時: 2026年9月18日(金) 7:30~8:30

証し: 恵美奈 博光さん(大阪サウスワイズメンズクラブ)

場所: 大阪YMCA会館 10階 チャペル(大阪市西区土佐堀1-5-6)

※中止の場合は大阪YMCAホームページ「NEWS 新着情報」でお知らせいたします。

【お問い合わせ】

大阪YMCA 本部事務局

TEL: 06-6441-0894

E-mail: info@osakaymca.org

エントリーは9/30(水)まで!

第31回 大阪YMCAチャリティーラン2026

日時: 2026年10月12日(月・祝) 9:00~12:00

※お楽しみ抽選会 12:00~13:00

場所: 万博記念競技場 特設コース(大阪府吹田市千里万博公園)

詳細は、HPをチェック!

大阪YMCAチャリティーラン 2026



【大阪YMCA チャリティーランお問い合わせ窓口】

E-mail: chari-run@osakaymca.org

大阪YMCA大会2026

《今年のテーマは10月号で発表!》

日時: 2026年11月23日(月・祝) 13:30~(予定)

場所: 大阪YMCA会館 2階ホール(大阪市西区土佐堀1-5-6)

大阪YMCAのYボランティア(会員)や大阪YMCAに関わる全ての方が一堂に集い、会員がワンチームとしてつながる一日です。

一人ひとりの想いや小さな幸せがつながって大きくひろがっていく...あなたとわたしの笑顔でYMCAのカタチを共有しあいましょう! 会員活動報告や会員表彰者紹介、交流を深めるプログラムを準備しています。ぜひご予定ください!

※プログラム詳細・参加申込方法は、後日、大阪YMCAのホームページなどでお知らせいたします。

2026年 熊本地震 救援・復興支援募金ご協力のお願い

第一次募金受付期間: 2026年9月30日まで

2026年7月28日に、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード7.1(推定)の地震が発生し、宇城市および氷川町で最大震度7を観測しました。被災されたすべての皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

被災した熊本YMCAでは、施設の損傷等の被害を受けた中であっても、被災者支援の取り組みやさまざまな支援のニーズに対応する必要があると予想されます。こうした状況を受け、被災された熊本の方々に支援するため、「2026年熊本地震 救援・復興支援募金」を実施いたします。

皆さまからお寄せいただいた募金は、YMCAが行う被災地域での救援、復興支援の活動のために用いさせていただきます。皆さまのあたたかいご協力を、心よりお願い申し上げます。

◆募金方法: 各YMCAの窓口へ直接お持ちいただくか、以下の方法でお手続きをお願いいたします。

①銀行振込: 三菱UFJ銀行 大阪為替集中店

普通預金 No.0230080

公益財団法人大阪YMCA

カナ: ザイ)オオサカワイエムシーエー

②郵便振替: 00980-0-11933 公益財団法人大阪YMCA

※郵便振替の場合はお名前の後や備考欄に「2026クマモト」とご記載ください。

③クレジットカード: 大阪YMCAホームページ

寄付フォームサイト

右のQRコードからWebサイトにお入りください。



※寄付金領収証が必要な方は、下記連絡先までご連絡ください。

公益財団法人大阪YMCA

TEL: 06-6441-0894 E-mail: info@osakaymca.org

会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

(2026年6月・7月度報告・敬称略)

【新規会員】

尾川 寧々
小島 翔也
河合 友夏
小坂 真
関 寛之
田中 理子
畑 彩花
島 美咲希
福山 正智
待井 いぶき
水杉 航太郎
横山 日香

【継続会員】

秋山 健二
荒賀 めぐみ
飯田 雪子
池田 聡美
池田 博人
生駒 祐美
石川 慶子
井上 紀子
猪之間 冴香
上村 五月
内山 雅文
榎本 房代
大井 琴葉
大石 和秀
大塚 由実
大西 香織

小川 健一郎
隠岐 絵里
越智 絵美
小淵 直一
鍛冶田 千文
片岡 千賀子
片山 聡子
加藤 楓
加藤 馨気
河合 美保
川谷 いずみ
川端 康博
川良 昌宏
菅田 齊
岸田 夏希
木田 泰之
北澤 圭太郎
北野 瑞季
金 大雄
木村 真海
切通 菜摘
桐山 泰典
NGUYEN HUYNH GIAO
國見 和宏
小島 宏樹
小濱 塔子
小林 直樹
齊藤 薫
坂口 慧多
四方 陽子
下村 崇史

末岡 祥弘
杉浦 真喜子
杉原 育夫
杉村 徹
杉山 聡子
須佐 神楽
鈴木 えみ
隅田 薫
勢井 智子
関口 楓
妹尾 直子
高木 麻友
高橋 京子
瀧口 紗緒理
武井 和子
竹中 豊明
竹本 幸未
竹本 忠邦
立山 英展
田中 千代
田宮 芳光
寺田 祐子
寺田 友理加
土居 いずみ
堂本 隆子
中井 琴子
中井 基子
中尾 ひかり
仲原 成岳
中村 菜々美
並木 聡子
西川 真由

西野 陽一
西村 麻衣
新田 展子
野田 寿加子
芳賀 義昭
濱田 菜々美
浜野 昌保
林 健児郎
林 健太郎
林 貴子
東浦 巧
久岡 美弘
樋上 恵一
弘田 優子
福本 悟
藤本 志枝
藤好 基子
船戸 輝久
古谷 佳之
細野 智紗
真嶋 克成
増田 起世子

増成 恒哉
松坂 佳江
松本 好史
美濃出 咲子
三宅 玲子
宮原 葵
宮本 葵
盛矢 恒朗
八木 楓
安田 楓
柳谷 利起
矢野 成悟
山内 淳子
山佐 亜津子
山田 ひかり
山根 一毅
山辺 聡子
雪村 葉月
横山 伊津子
横山 将也
吉田 陽香
吉田 由美
吉松 環

増成 恒哉
松坂 佳江
松本 好史
美濃出 咲子
三宅 玲子
宮原 葵
宮本 葵
盛矢 恒朗
八木 楓
安田 楓
柳谷 利起
矢野 成悟
山内 淳子
山佐 亜津子
山田 ひかり
山根 一毅
山辺 聡子
雪村 葉月
横山 伊津子
横山 将也
吉田 陽香
吉田 由美
吉松 環

【継続賛助会員】
梅津公認会計士事務所
大阪シティ信用金庫
積水ハウス株式会社
忠岡税務会計事務所
堀江電機株式会社
株式会社マンダム

ユースリーダー安全支援金へのご協力に 感謝申し上げます。

(2026年7月度報告・敬称略)

東里 英実
池田 雪子
池端 夏実
生駒 義範
石野 小葉都
今西 吉雄
上床 敦
梅本 由美子
大賀 祐樹子
大阪長野
ワイズメンズクラブ

大西 香織
小川 健一郎
小島 英恵
小原 早代里
菅田 齊
北山 弘信
駒井 直美
齊藤 薫
坂下 葉子
坂田 啓子
四方 陽子

新木 梨乃
新保 貴子
杉原 育夫
大明 哲也
高松 葉子
武田 善博
竹野 寛美
竹本 久仁子
立山 英展
崔 金順
津田 美知子

寺岡 博也
Du Xuan
土肥 正明
中井 琴子
仲原 成岳
中村 隆幸
西村 麻衣
早川 陽子
比嘉 幸
藤好 基子
藤原 本代

松野 時彦
三浦 直之
牟 大盛
森本 信子
森本 好子
吉本 全孝
吉本 律子
脇本 博
綿谷 佳世子

大阪YMCA
ホームページ



ボランティア
スクエア



大阪YMCA
ゼロハックムービー

